

# 令和3年度学校評価 自己評価・学校関係者による評価

## A. 自己評価

### 1. 校内学校評価会議

#### (1) 令和2年度の協議内容の検証

##### ●部活動について

保護者、生徒、教職員全てにおいて低い評価となった。生徒の高校生活を充実させる本校の部活動の在り方をどうするか

→【令和3年度のアンケート結果】

部活動の活性化については、昨年よりも評価が上がっている《保護者 16》《生徒17》《教員25》。ただし、「部活動の運営」については、今後継続して検討していくべき課題である。

##### ●教育課程編成について

令和4年度から新学習指導要領が実施される。その趣旨を十分にいかしつつ、本校の特色や実態に即した教育課程を編成するにはどのようなことに留意すべきか

→【令和3年度のアンケート結果】

教務部中心に編成が行われているところである《教員5・6》。

##### ●分掌と学年の連携について

分掌と学年とが連携を取り合って活動を行う際にどのような改善すべき点があるかを明らかにし、各分掌において次年度にいかしたい。

→【令和3年度のアンケート結果】

分掌と学年の連携については改善がみられる《教員3》。教員の自由記述において、組織的な「進学指導」についての指摘が多い。

#### (2) 令和3年度の協議題と情報共有【令和4年2月10日(木) 16:00～16:50 学校評価会議(職員会議)】

令和3年度学校評価アンケートの結果をふまえ、「組織的な進路(進学)指導」と「基本的な生活習慣の指導」について協議題を設定し、意見交換と情報共有を行った。

##### ①分掌と学年が連携した進路指導(特に進学指導)を実現するための方策について

- ・3年間を見通した計画を進路指導部で立案する。
- ・進路指導部内で共有した情報を各学年に伝達するシステムをつくる。
- ・進学に対応するための学力不足を感じる。思考力を高めるための家庭学習についても考えていく必要がある。
- ・進学指導については、個別指導が不可欠である。そのため、個別にどのような指導を行ったかについて、記録をとり、指導のノウハウを学校として蓄積していく。
- ・何のために進学するのか、生徒自身の目標を明らかにする。そのうえで、進路の「指針」は進路指導部が作成し、それに対する「戦略」は各学年でつくっていく。
- ・「進学希望」といっても、生徒や保護者も漠然としたイメージしか持っていないことが多い。生徒自身が頑

- ・張れば手が届くゴールを提示することで、現実的な進学指導の実現を目指す。
- ・生徒同士で進学に向けて最後までともに励まし合える集団を育てる。

## ②基本的な生活習慣(挨拶、整容、マナー等)の指導において、共通理解を持って指導するための方策について

- ・月毎、学年毎に目標を設定して取り組む。
- ・認識の違いへの対策として、重点課題を設けて取り組む。
- ・日常的な指導、とくに授業における指導(授業に向かう態度、返事、礼節等)が大切。
- ・生徒自身に目的を持たせたいうえで、生活指導を行う。
- ・基準を明確にする。ただし、全てにおいて細かく決めるのではなく、「最低限これだけは守ろう」というミニマムな基準にする。
- ・規定を見直す際には、生徒の意見を聞きながらすすめていく。
- ・生徒同士がルールやマナーを呼びかける環境をつくる。

## (3)各分掌における次年度の課題と対策

分掌	問題点	課題と対策
総務	<p>・防災関係で、仁賀保高校が避難所として指定されているため、その運営に関してにかほ市との話し合いが必要なのだが、きちんとした話し合いができずにいる。</p> <p>・PTAの役員と学年部の連携がうまくいっていない。</p>	<p>・物理的な問題について 防災の物品は仁高館に置くことが有力だが、ねずみが発生しており、食料を備蓄するわけにはいなくなってしまう。その他のところでも保存するところがない。</p> <p>・避難所運営についての連携 避難所の本格的な運営は、にかほ市が担当するが、発災の初期段階においては、生徒の安全を確保するためにも学校職員の対応が必要となる。その連携を確認し、防災訓練に活かすためににかほ市との話し合いが必要。また、にかほ市と連携した避難訓練等が必要。</p> <p>・PTA役員と学年PTAとの連携 PTAの評議員会をなくしたことにより、シンプルな組織となり、PTA役員会の役員の出席率は高くなり、学校運営に対していろいろな提言を話してもらおうことができるような体制ができてきたが、学年のPTAとの連携がうまくいっていない。これを解決するために、学年部長や副部長をPTA役員に組み込めるようにするとよいと思う。</p>
教務	<p>意欲を持って学習に向かう姿勢が十分とは言えず、家庭学習時間も足りていない。</p>	<p>《課題》 学びに向かう姿勢の向上 家庭学習の習慣化</p> <p>《対策》 1学期末と2学期末に家庭学習状況の調査を行い、不十分な場合は改善を促す。 年間資格取得カレンダーを作成し、学習に向けての意欲を高める。</p>
生徒指導	<p>整容指導を含む基本的な生活習慣が身につけさせるための生活指導に対し、教員間の共通理解が十分とはいえない。</p>	<p>《課題》 生活指導において、生徒の意見を反映させつつ、教員が共通理解を持って指導する方法はどうあるべきか。</p> <p>《対策》 ①整容指導では学年部以外の教員が関わり、学年ごとの指導のぶれがないようにする。 ②あれもこれもではなく、最低限守らせるべきルールを設定する。 ③生徒の意見も反映させた、校則やルールの見直しを行う。</p>

<p>進路指導</p>	<p>入学生徒に対する進路指導の方向性の意識付けと、進路に関する早期の取り組みの実現</p>	<p>他地域に比べ TDK の存在が大きく、ここ数年の採用数を見ても、安心感があるが、一方で、いつ何をきっかけに採用数が押しえられるか予測がつかないため、日頃から取り組むべき内容として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①基礎学力の定着と、向上</li> <li>②キャリア教育の継続と充実</li> <li>③外部人材を活用した体験活動の活用</li> <li>④地域の企業学習(探求)の取り組みの充実</li> <li>⑤インターンシップの充実</li> </ul>
<p>特別活動</p>	<p>運動部10部、文化部6部、同好会5部が、生徒の課外活動を支えているが、大半の部が対外的な大会への参加にのぞめない等、厳しい運営状況にある。</p>	<p>《課題》 部活動を活性化するための環境整備と生徒に充足感をもたらす指導方法はどうあるべきか。</p> <p>《対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①部活に向かう姿勢等、学校全体の共通ルールを設定する。</li> <li>②部同士で練習試合を行う等、部活間の交流をすすめる。</li> <li>③全員部活動加入制を導入する。</li> <li>④総合運動部が受け皿となり、運動部希望生徒の要望に応える。</li> <li>⑤生徒との定期的なミーティングや「月間活動予定表」等を通じて、保護者も含めたコミュニケーションにつとめる。</li> </ul>
<p>健康教育</p>	<p>健康診断結果(所見あり)を改善するための行動変容を促すアプローチ</p> <p>・歯の健康は全身の健康とも深く結びついている。健康診断も一つのきっかけとして歯や口腔の状態を良好に保ってもらうため、何らかの所見があつて受診を要する者に対して複数回通知しているが、受診済みの割合は40.5%(R2:43.2%)にとどまっている。</p>	<p>《課題》 歯の健康に意識を向け、歯科受診率を高めるにはどうしたらよいか。</p> <p>《対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①色付用紙の使用、通知表への同封等工夫しながら、繰り返し通知する。</li> <li>②歯科講話の実施、保健の授業とのタイアップ等で、歯の健康を維持することの重要性を再認識させる。</li> <li>③委員会で展示(や昼食後の歯磨き励行キャンペーン)を実施する。</li> </ul>
<p>教育情報</p>	<p>《情報管理の意識と情報モラルに関して》 e-akita を介する ICT の利活用に関し、本年度は「より多くの機会を活用する」ことに主眼が置かれ、「情報モラルや、より望ましい利用法を身につける」ことへの指導が不十分であった。</p>	<p>《課題》 情報機器の利用機会に併せ、情報モラルの指導を充実させる必要がある。</p> <p>《対策》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒指導部、情報科(教科)と連携して、効果的な指導を実践する。</li> <li>②使用や持ち帰りに関する規程の整備と周知、手続きの適正な運用を図る。</li> <li>③担当者による活用度の差を縮小し、情報機器利用の機会を増やす。</li> <li>④指導法に関わる機器利用の実践的・効果的な研修の機会を確保する。</li> <li>⑤教科、学年部等のリクエストに応じて、必要とされる情報をこまめに提供する。</li> </ul>

## B. 学校評価関係者による評価

### (1) 学校関係者評価委員会

- ・仁賀保高校は、災害時にかほ市の避難所に指定されている。にかほ市総合発展後期計画にもあるが、総務部には、市と仁高の防災訓練等、防災活動を深めてほしい。
- ・「基本的生活習慣」の指導は、本来は家庭で行うべきであり、それを学校に求めることに違和感がある。
- ・進路指導については、「生徒の卒業後の進学先→その後の就職先」を一覧にしてまとめてみたらどうか。「仁高に行けばこんなところに就職・進学している」というのを実例で公開することで、保護者に教育成果を訴える必要がある。
- ・「広報にかほ」や秋田魁新報など、仁賀保高校が評価されていると感じている。
- ・生徒たちを見ていると、挨拶や基本的な生活習慣はできているように思う。生活習慣の指導は家庭の問題である。
- ・施設設備については、セミナーハウスの天井やふすまの修繕、洋式トイレなど、改善されている。
- ・地域への貢献度も大きい。地域イベントへのフラダンス同好会の出演が市民に大いに喜ばれていた。
- ・「広報にかほ」12月号の仁賀保高校特集、校門前の新しい看板など、とても良かった。仁高の様子をもっとアピールしてほしい。
- ・報道にもあったが、小学校への「プログラミング教室」のような取組をもっと実施してほしい。このような取組を通じて、地域の子供(児童)が仁賀保高校生に憧れを抱くことにつながると思う。
- ・生徒数の減少は、分母となる小中学生が減っているので致し方ないが、少人数の生徒にきめ細かい指導ができることを、逆に強みにしてほしい。
- ・アンケート結果について、PTAに参加している保護者と、そうでない保護者の温度差を感じる。「生徒」「保護者」「教員」の質問に微妙な違いがあるので、対象間の比較ができるよう統一してはどうか。
- ・待避所の整備について、感謝している。積雪時の除雪をお願いしたい。
- ・進学指導については、是非とも学力向上を目指させてほしい。

### (2) 令和3年度「秋田型学校評価」

分掌	意見・提言
総務部	<ul style="list-style-type: none"><li>・「⑦達成状況」について、できていないのか又はなされていないのか、要因は何か。この課題は仁賀保高校のカラーなので重要であると思う。</li><li>・防災関係は相手のあることでもあり、今後進めていければよい。その他、目標については良い。</li><li>・避難所としての運営整備ができていない。にかほ市防災課と連携し、目標を達成してほしい。</li><li>・避難所に関しては、にかほ市側との確認が必要と思われます。</li></ul>
教務部	<ul style="list-style-type: none"><li>・「③現状」「④具体的な目標」「⑤目標達成のための方策」が連動して、「⑥具体的な取組状況」につながり、「⑦達成状況」を数値で表せたことは評価に値する。</li><li>・授業の中で理解できない生徒がいると、中断してまでグループを組んで皆で考えるなど、一人にすることなく工夫された授業が行われている。</li><li>・授業参観の様子から、教員と生徒の雰囲気の良いがわかった。地理の授業ではICT活用しており画期的であった。</li><li>・授業参観で生徒が意欲的に取り組む姿がみられました。</li><li>・先生方はわかりやすく、楽しい授業をされていました。</li></ul>

生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手を思いやる精神的な成長を大変嬉しく思う。</li> <li>・感染対策が習慣化されている。</li> <li>・目標への取組を評価する。ただし、今後も生徒の積極性を育成してほしい。</li> <li>・現状については、小学生にも全く同様のことが言え、根が深いと思われます。今後に期待します。</li> </ul>
進路指導部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・良い人生のスタートラインに位置する生徒を考えると、指導者の皆様には感謝です。</li> <li>・具体的な取組内容と達成結果を見ても評価できる。改善点は私共も含め、協議しながら進めていけば良い。</li> <li>・生徒の進路、個々の能力に合わせた細やかな指導・支援をしていることを評価する。</li> <li>・生徒数の減少を逆手にとって、きめ細かい指導がされていると感じました</li> </ul>
特別活動部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「⑥具体的な取組状況」を目にして、嬉しく思います。県内においても、このような活動を先陣を切って努力されていることを評価するとともに期待しています。</li> <li>・多岐にわたり学校・生徒・保護者の理解と協力のもと、部活動、学校行事、社会貢献等、学校内外の活動は高く評価できる。</li> <li>・部活動の部員不足は課題であるが、特別活動の行事・地域連携は他校にない魅力があり評価できる。</li> <li>・コロナ禍の厳しい状況の中、最大限の配慮をしながら行事を行うことができて良かった。</li> </ul>
健康教育部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年にわたる長期間の中で感染者が確認されなかったことを高く評価したい。</li> <li>・進学、就職共に達成させている。先生たちの3年間の指導のもと、生徒がそれに応えたことは素晴らしいと思う。</li> <li>・目標どおり達成できている。</li> <li>・校内の至る所に消毒グッズの設置、啓発ポスターの掲示がされ、生徒たちもマスクの着用が徹底されている。</li> </ul>
教育情報部	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育分野においても、このICT界は切り離すことのできない状況にあります。</li> <li>・自己評価通りである。</li> <li>・ICTの効果的な活用を評価する。環境が整備されているので目標を推進してほしい。</li> <li>・様々な授業で chromebook が活用されていて感嘆した。</li> </ul>